

人 文 学 部

心理人間学科

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23111	心理人間学演習 I 1	必	通年	4	3	三上 茂	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【講義内容】 哲学・人間学・教育学の文献の講読演習を通して現代世界の問題を人間や教育の視点から批判的に考察する。毎月の最後の週は各人の卒論に向けての文献研究の発表に当てられる。

【講義計画】 文献の講読を発表者を決めて順番に行い、受講者全員が参加して討論を行う。発表者はレジュメを用意し、質疑に対して応答できる準備をしてもらうことが要求される。発表者以外の受講者ももちろん質問やコメントを要求される。出席が厳しく要求される。

【評価方法】 毎回の発表、発言、レポート、合宿時の発表、レジュメ、出席状況等を総合的に判断して評価する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23112	心理人間学演習 I 2	必	通年	4	3	CALMANO Michael	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 比較教育学研究

【講義内容】 人間の発達、人間関係、環境との関わり、心の諸問題、学習、家族、文化など、教育学や心理学、人間関係論の領域におけるさまざまなテーマを選んで発表・討論するとともに、それらの問題と教育との関わりについて考察することを目的とする。

【講義計画】 演習の導入として教員は「比較教育学」や「教育課程論」に関する理論的な考察を行うが、演習の主な内容は履修者の発表から成り立つ。発表は広い意味での「教育」「心理」「人間関係」に関連があればよいが、発表者はそのテーマを自由に選ぶことができる。なお、発表の準備に当たって、(次年度の)卒業論文のテーマ設定を目指して取り組んだ方が望ましい。

発表当番となった学生は授業の3日前までにレジュメを教員に提出する。授業は、発表を基にして、討論の形で行うが、必要に応じて教員はテーマの発展につながる補足説明をする。そのため実証的研究も紹介するが、特に価値問題を注目する。

【評価方法】 授業への出席、先輩・同輩の発表への積極的な反応と発言、及び演習に貢献する発表を合格の必要条件とする。筆記試験は行わないが、発表の準備(レジュメ等)は、授業参加と共に、成績を決める基準とする。

【テキスト】 共通のテキストは使わない。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23113	心理人間学演習 I 3	必	通年	4	3	加藤 隆雄	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 教育社会学研究

【講義内容】 人間の発達、人間関係、環境との関わり、心の諸問題、学習、家族、文化など、教育学や心理学、人間関係論の領域におけるさまざまなテーマを選んで発表・討論するとともに、それらの問題と教育との関わりについて考察することを目的とする。

- 【講義計画】 1. 文献の講読。以下の文献を予定している。
 本田和子『変貌する子ども世界』中公新書
 ジョーンズ/ウォーレス『若者はなぜ大人になれないのか』新評論
 岡原正幸他『感情の社会学』世界思想社
 ギデンズ『親密性の変容』而立書房
 リッツァ『マクドナルド化する社会』早稲田大学出版部
 2. 各自が設定した研究テーマにもとづき、適切な文献を発表する。
 3. 各自が設定した研究テーマにもとづき、研究計画および研究成果を発表する。

【評価方法】 発表およびレポートに平常点を加味する。

【テキスト】 上記参照

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23114	心理人間学演習Ⅰ 4	必	通年	4	3	林 雅代	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 教育史研究

【講義内容】 人間の発達、人間関係、環境との関わり、心の諸問題、学習、家族、文化など、教育学や心理学、人間関係論の領域におけるさまざまなテーマを選んで発表・討論するとともに、それらの問題と教育の関わりについて考察することを目的とする。

【講義計画】 1. 欧米および日本における教育史や関連領域の文献を購読する
 2. 教育史およびその関連領域における主要なテーマや概念の理解を深める
 3. 参加者個人、ないしは参加者の集合的な問題関心に即した文献の購読や資料の紹介を行う
 4. 教育史および関連領域のデータの収集方法を身につける
 以上のことがらを順次行っていくが、その順序や具体的な方法については参加者の意向に沿って決めることとする。

【評価方法】 討論への参加度、発表や討議の内容、場合によっては最終レポートを課し、その内容によって総合的に評価することとする。

【テキスト】 随時指示する予定。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23115	心理人間学演習Ⅰ 5	必	通年	4	3	松原 眞志夫	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 学校教育の研究

【講義内容】 人間の発達、人間関係、環境との関わり、心の諸問題、学習、家族、文化など、教育学や心理学、人間関係論の領域におけるさまざまなテーマを選んで発表・討論するとともに、それらの問題と教育との関わりについて考察することを目的とする。

【講義計画】 学校教育においては、義務教育、中等教育、高等教育、障害児教育、環境教育、道徳教育、国際化・情報化、学校経営、学級経営等の分野にそれぞれの課題がある。また、いじめ、不登校、非行等の現象面や、学校教育の改革、教員に係る諸問題など、研究すべきことが多い。

本演習では、学校教育のもつさまざまな課題の中から、各自の関心の深いものについて、その原理、実態、課題、解決の方法等について探求する。

- 1 論文、報告等の探索
- 2 各自の課題の設定

- 3 研究計画の立案、決定
 - 4 研究テーマの調査、深化
 - 5 研究報告書の作成
- 文献研究、討論に加え、研究テーマに応じて、外部調査、視察等を組み入れる予定である。

【評価方法】 授業への参加状況、研究報告書により評価する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23116	心理人間学演習 I 6	必	通年	4	3	田子 健	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副 題】 教育制度・政策研究

【講義内容】 人間の発達、人間関係、環境との関わり、心の諸問題、学習、家族、文化など、教育学や心理学、人間関係論の領域におけるさまざまなテーマを選んで発表・討論するとともに、それらの問題と教育との関わりについて考察することを目的とする。

【講義計画】 日本の教育制度・政策研究を中心に、21世紀の日本の教育は、どうなっていくのか、また、どのようになることがよいのか、を考える。21世紀の日本を、明るい豊かな社会としていくために、教育の再構築を行う教育政策のあり方を、調査を重視した方法、つまり実際の学校や地方自治体への訪問などによって追ってみたい。具体的には、学校選択、コミュニティスクール、地方自治体の教育改革／計画を取り上げる。

【評価方法】 レポートによる。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23117	心理人間学演習 I 7	必	通年	4	3	梅垣 弘	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副 題】 学校臨床研究

【講義内容】 人間の発達、人間関係、環境との関わり、心の諸問題、学習、家族、文化など、教育学や心理学、人間関係論の領域におけるさまざまなテーマを選んで発表・討論するとともに、それらの問題と教育との関わりについて考察することを目的とする。

【講義計画】 「学校ストレス」、「いじめ」、「不登校」など学校における児童生徒の精神保健的な問題について、文献研究を中心に検討を深める。
 なお講義計画としては、次のような手順を考えている。

- ① テーマ検討
- ② 専門雑誌論文収集
- ③ 収集した論文の読みこみとまとめ
- ④ 自分で探求したい点を絞り込む
- ⑤ データの分析
- ⑥ ゼミ論文の作成

【評価方法】 研究の目的や方法の設定の仕方や研究への取り組み方など総合的に評価する。

【テキスト】 特に指定しない。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23118	心理人間学演習 I 8	必	通年	4	3	長谷川 雅雄	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 臨床心理学研究

【講義内容】 人間の発達、人間関係、環境との関わり、心の諸問題、学習、家族、文化など、教育学や心理学、人間関係論の領域におけるさまざまなテーマを選んで発表・討論するとともに、それらの問題と教育との関わりについて考察することを目的とする。

【講義計画】 春学期は、テキストを用いて発表・討論形式で行うが、秋学期は主として各自の主眼的関心に基づいた「自由発表」に切り替え、同じく全体討論形式で進めていく。なお、適当な時期に、セラピスト役とクライエント役に分かれて架空の面接をする「ロール・プレイ」を行うつもりである。また、4月と9月には合宿を行う。

【評価方法】 討論での姿勢や発表内容および提出レポートなどから総合的に評価する。また出欠席も重視する。

【テキスト】 河合隼雄『心理療法序説』 岩波書店

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23119	心理人間学演習 I 9	必	通年	4	3	浦上 昌則	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 発達心理学研究

【講義内容】 人間の発達、人間関係、環境との関わり、心の諸問題、学習、家族、文化など、教育学や心理学、人間関係論の領域におけるさまざまなテーマを選んで発表・討論するとともに、それらの問題と教育との関わりについて考察することを目的とする。

【講義計画】 春学期 各自の持つ問題意識を深め、明確化する。
 1. 各自の持っている問題意識の発表
 2. 問題意識と関連する論文の読解

秋学期 問題意識について研究し、報告する。
 1. 研究計画の立案
 2. 報告書の作成

【評価方法】 授業への参加の様子と報告書によって評価を行う。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23120	心理人間学演習 I 10	必	通年	4	3	神谷 俊次	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【講義内容】 人間の発達、人間関係、環境との関わり、心の諸問題、学習、家族、文化など、教育学や心理学、人間関係論の領域におけるさまざまなテーマを選んで発表・討論するとともに、それらの問題と教育との関わりについて考察することを目的とする。

【講義計画】 心理学に関する文献を専門雑誌の中から選び、発表・討論することにより、論文の読解力を身につける。

さらに、各自の問題意識に基づいてテーマを設定し、そのテーマを追及する適切な心理学的アプローチの仕方を考えていく。

(1) 演習の時間で行うこと

通常の授業では、受講生が各自のテーマに関連する文献を発表し、その内容に関する討論を行う。また、時々、最新の心理学的知見に関して情報提供を行うこともある。

(2) 授業時間外の個別指導

各自のテーマに基づく個人研究については、オフィスアワー等を利用して個別指導を必要に応じて行う。

(3) 受講生各自が求められること

- a. テーマ検討、b. 文献の収集、c. 文献の整理（文献レビュー）、d. 研究計画の立案
- e. 調査・実験等の実施、f. データの分析、g. 論文の作成

【評価方法】 文献発表、出席、授業への参加度、文献レビュー論文（春学期終了時に提出）、研究論文（秋学期終了時に提出）によって評価する。

【その他】 夏休みに実施予定のゼミ合宿に参加することは必須である。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23121	心理人間学演習 I 11	必	通年	4	3	石田 裕久	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 教育心理学研究

【講義内容】 人間の発達、人間関係、環境との関わり、心の諸問題、学習、家族、文化など、教育学や心理学、人間関係論の領域におけるさまざまなテーマを選んで発表・討論するとともに、それらの問題と教育との関わりについて考察することを目的とする。

【講義計画】 教育心理学研究の具体的方法についての理解を深める。そのために内外の研究論文を選んで発表した後、各自の問題関心に応じて研究計画の立案、データ収集、結果の分析、報告書の作成までを行う。

年間を通じた授業計画は以下の通りである。

- (1) 4年次生による前年度の研究報告の発表（4月）
- (2) 各自が関心をもった研究論文紹介（5～6月）
- (3) 研究計画の立案・発表（7月）
- (4) 研究計画の確定（夏合宿）
- (5) 調査・実験の実施（9～10月）
- (6) 結果の分析（11月）
- (7) 報告書の作成（12～1月）

なお、調査・実験の実施にあわせて、データ解析のための実習を行う。

【評価方法】 討論など授業への参加度ならびに提出された研究報告書により評価する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23122	心理人間学演習 I 12	必	通年	4	3	津村 俊充	
他の科目との関連	人間関係プロセス論、人間関係フィールドワーク、人間関係トレーニング調査測定法 I・II をとっていることが望ましい。					他学科履修	不可

【副題】 社会心理学研究

【講義内容】 人間の発達、人間関係、環境との関わり、心の諸問題、学習、家族、文化など、教育学や心理学、人間関係論の領域におけるさまざまなテーマを選んで発表・討論するとともに、それらの問題と教育との関わりについて考察することを目的とする。

【講義計画】 春学期には、各個人の関心事に基づき、文献を調べ、これまでの研究論文から学び、自分の研究計画を立てる。できる限り、研究に対する問題意識として、単に調査して調べるだけでなく、何か（自分や対人

関係、グループなど)の変革に取り組むようなアクションリサーチになることをめざしたい。秋学期には、調査や実験、質問紙調査などを実施、データを分析し、最終的には研究報告書としてまとめてみることを求める。

年間の授業計画としては、以下の通りである。

- (1) 自分の関心をもった研究論文紹介(4～5月)
- (2) 研究計画の立案・発表(6～7月)
- (3) 研究計画の確定(夏合宿)
- (4) 調査・実験の実施(9～10月)
- (5) 結果の分析(11月)
- (6) 報告書の作成(12～1月)

【評価方法】 授業への参加度、討論への関与度、および提出された研究報告書により評価する

【テキスト】 吉田・松原編著 「社会心理学—個人と集団の理解—」 ナカニシヤ出版

【その他】 ゼミ生は、社会心理学ゼミとして、共に学ぶ一つのグループを形成するわけであり、受講者同士の関係(グループ)にも焦点をあて“今ここ”での関係の変革にも意識的に取り組みたい。
夏・春には、ゼミ合宿を行い、全員参加すること。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23123	心理人間学演習 I 13	必	通年	4	3	川浦 佐知子	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 アイデンティティ研究ゼミ

【講義内容】 人間の発達、人間関係、環境との関わり、心の諸問題、学習、家族、文化など、教育学や心理学、人間関係論の領域におけるさまざまなテーマを選んで発表・討論するとともに、それらの問題と教育との関わりについて考察することを目的とする。

【講義計画】 このゼミでは「アイデンティティ」を主要テーマとし、“私”とは何か、“自己”をどう定義づけるか、帰属感をめぐる問題、自己をどう社会、世界の中に位置づけるかといった問いに、質的リサーチ手法を用いてアプローチします。具体的には；

- ・青年期など様々なライフ・ステージにおいておこるアイデンティティの危機、
- ・社会的役割、人間関係(家族関係、友人関係など)の変化に伴う自己検討、
- ・異文化に触れるなど新しい体験によって引き起こされる自己変容、
- ・歴史的、社会的、個人的出来事(戦争体験、闘病体験など)をふりかえることを通しての自己理解、
- ・ジェンダー、国籍、人種、文化などが自己像に与える影響

などがリサーチ・トピックとなりえます。また夢など自分自身についてのデータをもとに、リサーチをすることも可能です(但し、この場合はかなり組織的アプローチが必要です)。データ収集は面談(インタビュー)を主とします。春学期中に研究テーマの洗い出し、文献収集とそのレビューを行います。それを研究計画と共に夏季集中ゼミにおいて発表。秋学期にはパイロット・スタディとして数本のインタビューを行ない、レポートをまとめます。ゼミにおいては互いにフィードバックをしながら、各自の研究を研鑽することが望まれます。

【評価方法】 ゼミ参加度、レポートにもとづく総合評価

【テキスト】 『アイデンティティ：青年と危機』 E.H.エリクソン著

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23124	心理人間学演習 I 14	必	通年	4	3	中野 清	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 わたし哲学・倫理学ゼミ

【講義内容】 人間の発達、人間関係、環境との関わり、心の諸問題、学習、家族、文化など、教育学や心理学、人間関係論の領域におけるさまざまなテーマを選んで発表・討論するとともに、それらの問題と教育との関わりについて考察することを目的とする。

【講義計画】 「わたし」とはそもそもどういう存在か？他者と関わるとはどういう事態か？他者と共に生きることはどのようにして可能か？今を生きるわたしにとって、過去とは何か、未来とは何か、永遠とはなんだろう？こうした「わたし」の生き方を規定する根本問題を視野におきながら、各人は自分ももっとも関心をもつテーマを自由に決め、そのテーマ研究をとおして、冒頭の根本的な問いに答えることがこのゼミの最終的な目標です。テーマは、たとえば、環境、戦争と平和、生命倫理、教育、異文化、差別などさまざまなものがあります。また自分のテーマ研究の視野を広げるため、他のメンバーのテーマや主張と自分のそれとがどう関連するかを、討論と考察を通じて見つけることもこのゼミの第2の課題とします。

1年間の授業の進め方と課題は、つぎのとおり。

〔春学期〕(1)全員の問題関心テーマを出しあい討議しながら、それぞれのテーマがどのように関係するかを検討する。(2)指定文献(今年度は、池上哲司他編『自己と他者』の予定)の分担発表と討論。(3)特定の問題をめぐってディベート方式による討論。(4)学期末に指定文献についてのレポートを提出。

〔秋学期〕(5)再び全員の関心テーマがどのように関係するかを検討する。(6)各人は個人の研究テーマと主要文献を決め、数週間の準備期間を経て、順に研究成果を発表し、全員との討議を行う。(7)学期末に個人テーマについてのレポートを提出。

【評価方法】 (a)授業中にどれだけ積極的な発言を行なったか。(b)期末レポートにおいて、自分の課題テーマをどこまで明確化できたか。(c)自分の課題テーマについてどれだけ検討を加えたか、文献研究と考察の内実。(a)(b)(c)を総合して評価します。

【テキスト】 池上哲司・永井均・斎藤慶典・品川哲彦編『自己と他者』昭和堂 1994年

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23125	心理人間学演習 I 15	必	通年	4	3	楠本 和彦 中村 和彦	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 カウンセリング研究ゼミ

【講義内容】 人間の発達、人間関係、環境との関わり、心の諸問題、学習、家族、文化など、教育学や心理学、人間関係論の領域におけるさまざまなテーマを選んで発表・討論するとともに、それらの問題と教育との関わりについて考察することを目的とする。

【講義計画】 個人カウンセリング、グループセラピー、援助的なコミュニケーションなどについて、知的洞察を深めるとともに、他者との対話の中での自分のセンシティブリティを高めることをねらいとする。

カウンセリングに関する文献を熟読し、カウンセリングや心理療法の知識を獲得するとともに、4年次の卒業論文に向けて各自の関心事をより深める作業を行っていく。

また、知識獲得だけでなく、体験的学習を通じて、自己内コミュニケーション、対人コミュニケーションの能力の向上をも視野に入れ、よりよい援助者としての自己開発にも取り組む。具体的には、カウンセリングで生じるプロセス観察のトレーニング、逐語録作成とその会話分析、などの手法を学習していく。ワークショップなどを実施することにより、セラピー的な体験も導入する。

【評価方法】 出席状況と課題内容を総合的に評価する。

【テキスト】 適宜、講義中に文献を指示する。

【その他】 体験と理論を橋渡しする内容のゼミ合宿を行う。全員参加が求められる。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23126	心理人間学演習 I 16	必	通年隔週	4	3	山口 真人 グラバア俊子 アッセマ庸代	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 人間関係と人間性心理学

【講義内容】 人間の発達、人間関係、環境との関わり、心の諸問題、学習、家族、文化など、教育学や心理学、人間関係論の領域におけるさまざまなテーマを選んで発表・討論するとともに、それらの問題と教育との関わりについて考察することを目的とする。

【講義計画】 演習 I では、人間関係の原理的な問題や従来の心理学では扱わなかった人間性の諸領域をトピックスとして取り上げ、3人のスタッフのチームティーチングによる参加体験型の授業を、学生と共に創り出していきたい。
トピックスとしては、自己表現、自己成長、自己実現、感情、イメージ、からだどころ、対話、かかわり、出会い、愛、癒し、ホリスティックアプローチなど、自己やかかわりに関するものの中から学生の関心に応じて取り上げたい。
授業は学生の参加体験を重視したいので隔週の2コマ続きで行い、スタッフミーティングへの学生の参加も奨励したい。

【評価方法】 出席、発表、レポートを総合してPF方式で行う。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23601 23606	人間関係フィールドワーク I・II	選	春学期 秋学期	各6	2	山口 真人 アッセマ庸代 グラバア俊子 川浦 佐知子 楠 本 和彦 中 村 和彦 中野 清充 津 村 俊充	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 学外での人間関係実習

【講義内容】 フィールドワーク I では、学生は福祉関係施設での半年間にわたる「人間関係実習」を行う。教員は適時学生の実習先を訪問し、実習の実際状況を把握し、受け入れ施設との関係を調整する。体験実習と同時に、フィールドワークを通しての学習を促進し明確化するための学内授業を実施し、専任教員がそれぞれの専門領域からの講義を行う。

フィールドワーク II では、福祉関係施設での半年間にわたる様々な体験を通して、「生きること」や「人間」とは何かといった問題を考える。教員は適時学生の実習先を訪問し、実習の実際状況を把握し、受け入れ施設との関係の調整にあたる。また、フィールドワークを通しての学習を促進し明確化するための学内授業を実施し、専任教員がそれぞれの専門領域からの講義を行う。

【講義計画】 人間関係フィールドワーク I・II は以下の2つの内容から構成されている。

- ① 福祉関係施設での実習（水曜日全日）：受講生は、自らが選択した福祉関連施設（養護学校、老人福祉施設、障害者施設、など）で1日を過ごす。また、そこでの体験や学びをジャーナルに記録し、担当教員に提出する。
- ② 学内での授業（火曜5・6限）：実習先での体験を明確化するための講義や討論、実習が行われる。また、提出されたジャーナルはここで担当教員によるコメントとともに返却される。また、学期の終わりには、フィールドワークで学んだことを発表するための報告会が全体で実施される。

従って、受講生にとって、火曜5・6限と水曜全日（1～8限）が「人間関係フィールドワークⅠ・Ⅱ」の時間となる。

【評価方法】 学外での実習への出席、ジャーナル提出、学内授業への参加、およびレポートの提出による。評価はPF方式で行う。

【テキスト】 実習先までの交通費、養護学校などでは昼食の給食費、等の実費が必要になる。また、保険代、報告書作成費用などの諸経費として、春学期の初めに費用を集める（2001年度は年間3,200円）。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
23611	人間関係プロセス論 (グループプロセス)	選	春学期	4	2	津村 俊充 川浦 佐知子
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 人間関係の中でも小グループの中で生じる人間関係のダイナミックスを理解する。特に体験学習の実習によるシミュレーションゲームを使いながら、グループダイナミックスの理論とグループワークの実際とを統合的に学ぶ。同時に、グループプロセスに働きかける実際的な技能（リーダーシップ能力）の育成を目指す。2コマ続きでおこなう。

【講義計画】

- 1：体験学習を体験する
：問題解決実習と小講義「体験学習とは何か」
- 2：グループの中にかかるプロセスに気づく
：グループ実習と小講義「コンテンツ(content)とプロセス(process)」
- 3：グループ・プロセスを捉える視点を理解する（1）
：実習「討議と観察」小講義「グループ・プロセスの諸要素（1）」
- 4：グループ・プロセスを捉える視点を理解する（2）
：実習「討議と観察」小講義「グループ・プロセスの諸要素（2）」
- 5：リーダーシップとは何かを理解する
：グループ実習と小講義「リーダーシップとは」
- 6：グループ成長と個の成長について考える（1）
：実習「フィードバック・セッション」と小講義「人間関係トレーニングにおける成長モデル」
- 7：グループ成長と個の成長について考える（2）
：グループ実習と後半に向けての私の成長のためのねらいづくり
- 8：集団の意志決定のあり方に気づく
：映画に観るグループ・プロセスと小講義「グループにおける意志決定について」
- 9：自分の行動目標を明確にし、グループの中でそれに取り組む（1）
：実習「グループの診断と介入Ⅰ」と小講義「グループの診断と介入」
- 10：自分の行動目標を明確にし、グループの中でそれに取り組む（2）
：実習「グループの診断と介入Ⅱ」と小講義「グループは成長する」
- 11：グループ・プロセスに気づき、それに働きかける（参加観察.1）
：コンセンサス実習と小講義「社会的相互作用の循環過程」
- 12：グループ・プロセスに気づき、それに働きかける（参加観察.2）
：実習「Walk Rally」と実習「フィードバック・セッション」
- 13：この授業でのグループ体験をふりかえり「グループと私の変化」について考える

【評価方法】 出席状況、レポート、テストによる総合評価
最終評価は、「P (Pass:合格)」「F (Failure:不合格)」で行う。

【テキスト】 「人間関係トレーニング」津村・山口編、ナカニシヤ出版、1992

【その他】 この授業は2コマ連続で行う。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23616	人間関係プロセス論 (コミュニケーションプロセス)	選	秋学期	4	2	山口 真人 グラバア俊子	
他の科目との関連	人間関係プロセス論 (グループプロセス) と併せて受講することを薦めます。					他学科履修	可

【講義内容】 人間関係の中でも対人間コミュニケーションに焦点を当てる。言語コミュニケーションおよび非言語コミュニケーションの諸領域での体験学習の実習やカウンセリングのトレーニング技法を使いながら、対人間コミュニケーションのプロセスの原理と実際を体験的に理解する。2コマ続きでおこなう。

【講義計画】 対人間コミュニケーションに影響する諸要因の中から、主に「自己概念」、「傾聴」、「感情の取り扱い」、「明確な表現」、「自己開示」などの要因を取り上げて検討しようと考えている。ラボラトリーメソッドと呼ばれる体験学習法を使って、学習者がコミュニケーションの問題を自分自身の体験に即して考えることができるように工夫したい。

【評価方法】 出席、レポートを総合してPF方式で評価を行う。体験的に学習することを重視するので全出席を原則とし、3回以上の欠席者には追加課題を課し、その成果をもって単位認定を行う。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23621 23622	心理学実験 I 1・心理学実験 I 2	選	春学期	各2	2	神谷 俊次	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 心理学基礎実験

【講義内容】 心理学的研究を行う場合に必要不可欠な研究方法の理解を深める。この授業では、いくつかの実験実習を通して心理学的研究方法のうちの実験法について特に理解を深める。授業時間は講義と実習に当てられるが、文献収集やレポートの作成などにさらに多くの時間を費やすことが必要になる。

【講義計画】

1. 実験心理学とは
2. 実験計画法
3. 心理学的測定法
4. 心理学レポートの様式
5. 実習テーマの解説
6. 実習1：ミューラー・リヤー錯視
7. 実習2：鏡映描写（左右の転移）
8. 実習3：系列位置効果
9. 実習4：要求水準
10. グループ別研究発表データの整理
11. 研究発表会1
12. 研究発表会2

【評価方法】 レポートや研究発表、出席により評価する。レポートの提出が実習課題ごとに求められるので、かなりハードな授業であることを覚悟して履修すること。なお、小グループによる実習であるため無断欠席や遅刻は許されない。

【テキスト】 「心理学実験 I マニュアル」を配布する。

【その他】 2001年度の受講生による本授業に対する評価や感想、授業紹介が、心理人間学科のホームページ内の「心理人間学科生への連絡事項」(<http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/JINBUN/Shinriningen/in/index-n.htm>)の中に掲載されています。この科目を履修するかどうかの判断材料にしてください。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
23626 23627	心理学実験Ⅱ 1・心理学実験Ⅱ 2	選	秋学期	各2	2	神谷 俊次	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副 題】 心理学基礎実験

【講義内容】 心理学的研究を行う場合に不可欠な研究方法の理解を深める。この授業では、心理学的研究方法の中の実験法について、様々な実習を通じて理解、習得することを目標とする。また、実験によって得られたデータの統計的分析やパーソナルコンピュータによる心理学実験の立案などに取り組む。授業時間は講義と実習に当てられるが、観察実習や文献収集、レポートの作成などにさらに多くの時間を費やすことが必要になる。

- 【講義計画】
1. 統計学の基礎
 - (1) 代表値と散布度
 - (2) EXCELによる統計データ処理の基礎
 - (3) 統計的推測の考え方
 - (4) 統計的検定の考え方
 2. 実験実習とデータの分析
 - (1) 立体視実験、カイ検定
 - (2) 反応時間実験、t検定
 - (3) 尺度構成法、Z変換
 - (4) 色の好悪、相関係数、分散分析

【評価方法】 レポート出席により評価する。レポートの提出が実習課題ごとに求められるので、かなりハードな授業であることを覚悟して履修すること。なお、小グループによる実習であるため、無断欠席や遅刻は許されない。

【テキスト】 「心理学実験Ⅱマニュアル」を配布する。

【そ の 他】 2001年度を受講生による本授業に対する評価や感想、授業紹介が、心理人間学科のホームページ内の「心理人間学科生への連絡事項」(<http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/JINBUN/Shinriningen/in/index-n.htm>)の中に掲載されています。この科目を履修するかどうかの判断材料にしてください。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
23631	人間関係トレーニング	選	夏期後半	2	2~4	中村 和彦 楠本 和彦 津村 俊充 山口 真人	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副 題】 Tグループによる人間関係トレーニング

【講義内容】 小クラスに分かれて「Tグループ」を中心的な方法として用いる人間関係トレーニングを行う。グループプロセスについて、リーダーシップについて、自己とは、共感的理解とは、受容とは、人間とは何か、人格の出会いとは何か、などについて体験的に学ぶ。「Tグループ」はグループダイナミクスを創始したゲシュタルト心理学者のクルト・レビンを中心にして米国で開発された人間関係研究の方法であり、組織管理者、ソーシャルワーカー、教師、カウンセラーなどの養成に必須の体験学習となっている。学外の施設を利用して、合宿形式の集中授業として行う。

【講義計画】 この授業は、5泊6日の学外での合宿形式で行う(2002年度は、8月26日～8月31日の間、名古屋市民御岳休暇村において実施する)。

Tグループは、体験学習の原点である。学生約10名とスタッフ2名が1グループとなり、合宿中とともに過ごし対話をしながら、自分について、他者について、人間関係について、体験的に深く洞察していくものである。

【評価方法】 合宿・学内授業への参加およびレポートの提出による。評価はPF方式で行う。

【テキスト】 津村・山口（編）「人間関係トレーニングー私を育てる教育の人間学的アプローチ」ナカニシヤ出版

【その他】 合宿費用（宿泊費・食費）として、38,000円を徴収する。また、交通費は別途必要となる。
学内授業を、合宿前として7月6日（土）1～4限にD51教室にて（オリエンテーション及び行き方について）、合宿後として9月28日（土）1～4限にD51教室にて（フォローアップとして）実施するので出席のこと。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
23636	自己開発トレーニング	選	夏期後半	2	2～4	アッセマ庸代 中野清 グラバア俊子 川浦佐知子
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 クリエイティブな体験の世界へ、未知の自己との遭遇

【講義内容】 学内授業ではできない集中的な自己理解や人間関係のスキルトレーニングに取り組む。各教員の専門領域に応じてワークショップ形式の小クラスに分れ、創造性の開発、ディベート、イメージワーク、ゲシュタルトアウェアネスなどを例とするテーマに体験的に取り組む。学外の施設を利用して、合宿形式の集中授業として行う。

【講義計画】 4つのワークショップの内から、学内授業初回に1つ選択して、6日間取り組みます。

- 「いのち ことば 医の理」（アッセマ庸代）人や自分とどんな風に話していますか？物や者や異文化と何の言葉でかかわっていますか？人のためにいのりますか？ここは内省的な沈黙の声に着目するWorkshop。Assertion・素直な自己表現/自己風土化/イメージワーク/知と信/Life Science-Life Fantasy-Life Style/パラダイムワークで自己宇宙の粋を直観する。色彩言語・いろは唄・言葉・和語によるアートヒーリングも紹介する。
- 「創造性開発」（グラバア俊子）誰もが持っている創造性ー自己実現の創造性を豊かに花開かせてみましょう。様々なクリエイティブな活動、自然の中で一日独りで過すビジョングエストなどを自分のペースを大切にしています。これらの体験から20世紀が生んだ「自己実現」という言葉の理解を深め、21世紀を生きていく「私」としての自己実現とは何か考え、更にそれを生み出す創造性に会いたいと思います。
- 「ドリームワーク」（川浦佐知子）。ユングやフロイトが「無意識からのメッセージ」として扱った夢。夢は自分自身やまわりの人々との関係のあり方について、重要な情報を与えてくれます。深層心理学における夢の位置づけや主な理論を理解し、ゲシュタルトアウェアネス、ドリームシアターなどの手法を使って実際に自分の夢をワークします。
- 「詩作と思索」（中野清）。自分のうちにひそんでいる豊かな「ことばの世界」に目を向け、自分の言語表現能力を高めることをめざします。（1）まず樹々と牧場に囲まれた合宿所周辺の豊かな自然のなかに散策しながら、自分のなかに湧き出ることばを詩のかたちに凝縮し表現してみます。（2）普段の文具とは違うインクペンで彩りを添え描きます。（3）現在の自分のあり方、他者や自然とのかかわり方をふりかえり、メンバーとともに語りあいます。（4）自分の考えをあげ柔軟に表現できるように、ディベートも試みます。

【評価方法】 PF方式。参加状況と最終レポートによる総合評価。原則として合宿全日程に参加。

【その他】 集中授業日程：9月11日（水）～9月16日（月） 学内授業は、5月18日（土）1～4限、6月29日（土）1～4限にD51教室にて、オリエンテーショングループワーク・部屋割等実施するので必ず出席すること。
定員：各ワークショップ15名、全体で60名。場所：キープ自然学校（山梨県清里）
費用：滞在費、保険料として約38,000円、その他交通費と若干の資料代を予定しています。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
23641	教育学A	選	春学期	2	2~4	三上茂
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 「人間の人間化への他の人間による援助」としての教育の基本構造を明らかにするために、製作・栽培・飼育・調教・宣伝・洗脳・情報伝達・情報操作と教育の違い、遺伝と環境、本能と学習、生理的早産、社会化と文化化といったトピック、教授・学習理論の歴史などを取り上げ概観する。

【評価方法】 出席状況と期末テストによる。

【テキスト】 用いない。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
23646	教育学B	選	秋学期	2	2~4	三上茂
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 「人間の人間化への他の人間による援助」としての教育の基本構造を明らかにするために、近代学校制度の歴史的沿革・特質・現代の学校の問題点、学校教育の目的と教育課程、学習指導と生活指導、学校経営と学級経営、教育行政・教師の問題などのトピックを概観する。

【テキスト】 出席状況と期末テストによる。

【その他】 用いない。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
23651	教育史	選	春学期	2	2~4	林雅代
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 社会における子どもに対する見方や子どもの教育の在り方が、人口変動や産業構造の変化、近代国家の形成などの諸変化とともに移り変わってきているという、子どもの社会的観点に立ちながら、欧米や日本の諸研究の成果を参照する中で、教育の歴史を概観していく。

- 【講義計画】
1. 家族規模と子ども
 2. 子育ての態度と実践
 3. 子どもと労働
 4. 近代家族と子どもの「発見」
 5. 近代社会制度と子ども

【評価方法】 授業時の小レポートおよび学期末試験によって評価する。

【テキスト】 特に指定しない。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23656	比較教育学A	選	春学期	2	2～4	CALMANO,Michael	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 外国と比較して自国の教育は良くなるのか？

【講義内容】 外国と比較することによって自国の教育は良くなるのか、という問題意識を掲げ、科学研究における価値の問題に焦点を合わせながら、「比較教育学」の歴史、理論、主な課題を概説し、諸外国（主にアメリカ合衆国とドイツ）との比較で、日本の教育制度（特に学校教育）の特徴を検討する。

【講義計画】 テキスト①を批判的に読みながら、教育学の一分野である「比較教育学」の歴史、理論、主な課題を概説する。主にアメリカ合衆国とドイツとの比較で、日本の教育制度（特に学校教育）の特徴を検討する（テキスト②）。統計的なデータや実証的な研究にもふれるが、特に科学研究における価値の問題に焦点を合わせる。

英語で書かれている文章を教材に使うこともあるが、講義は日本語で行う。授業の大半は（多少一方的な）講義になるが、授業への積極的な参加を可能にする予習を要求する。人数が許す限り、クラス全体あるいはグループによるディスカッションを行う予定。

【評価方法】 授業への出席参加を合格の必要条件とする。講義内容を対象とする筆記試験は行わないが、日本と外国の教育事情を比較する学期末のレポートを課す。具体的なテーマは履修者が自由に選ぶ。レポートの評価に出席参加を加味して成績を決める。

【テキスト】 ① 吉田正晴（編）、「比較教育学」（教職科学講座第8巻）、福村出版、1990年。
② R.P.ドーア著／松居弘道訳、「学歴社会 新しい文明病」（岩波現代選書）、岩波書店、1978年。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23661	比較教育学B	選	秋学期	2	2～4	CALMANO,Michael	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 日本の教育問題はユニークなのか？

【講義内容】 現代しばしば注目されている「問題」、すなわち進学と入試制度、しつけと体罰、学校教育における道徳教育、個性と管理教育、教育現場と教育行政、授業と教科書など、日本と諸外国（主にアメリカ合衆国とドイツ）の教育制度の違いと共通点を多面的に検討する。

【講義計画】 実際に取りあげる具体的なテーマの選択にあたって、履修者からの希望も参考にする。英語で書かれている文章を教材に使うこともあるが、講義は日本語で行う。授業の大半は（多少一方的な）講義になるが、人数が許す限りクラス全体やグループ・ディスカッションを行う。

【評価方法】 授業への出席参加を合格の必要条件とする。講義内容を対象とする筆記試験は行わないが、日本と外国の教育事情を比較する学期末のレポートを課す。具体的なテーマは履修者が自由に選ぶ。レポートの評価に出席参加を加味して成績を決める。

【テキスト】 共通のテキストは使わないが、学期末のレポートのために少なくとも一冊の本を批判的に読むことを期待する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23666	教育社会学	選	春学期	2	2~4	加藤 隆雄	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 教育社会学の古典社会学的源泉について理解を深め、現実の教育現象を見る基本的視角を確立した上で、教育と社会についての教育社会学の諸研究の展開について論じる。

- 【講義計画】
- 1 社会学的視点とは何か・〈子ども〉の変質と現代社会における社会化
 - 2 社会化の理論 (1) フロイト：性的発達の理論／エディプス・コンプレックス
 - 3 社会化の理論 (2) ミード：他者の役割取得／playからgameへ／一般化された他者／Iとme
 - 4 社会化の理論 (3) デュルケム：近代社会とアノミー／方法的社会化
 - 5 社会化の理論 (4) パーソンズ：ホップズ問題／超自我と社会規範／社会システム／家族
 - 6 教育と不平等 コールマン・レポート／ジェンクス／メリトクラシー
 - 7 社会階層と教育 コーン／ポールズ&ギンティス
 - 8 文化的再生産論 (1) バンステイン：精密コードと限定コード
 - 9 文化的再生産論 (2) ブルデュー：文化資本／ハビトゥス／階層文化
 - 10 文化的再生産論 (3) ウィリス：労働者階級文化／cultural studies／ジェンダー
 - 11 教育と社会移動 ブラウ&ダンカン／SSM調査
 - 12 学校の社会学 学校の機能／学級内相互作用／学歴社会

【評価方法】 出席及び学期末試験。

【テキスト】 特に用いない。参考書は講義時に指示。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23671	教育心理学A	選	春学期	2	2~4	石田 裕久	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 教育心理学の中心的課題である「人間の成長と発達」および「学習」の諸過程について理解を深めるために、乳児期から青年期に至る心身の発達を知的発達、心理社会的発達、自己意識の発達という3側面からたどるとともに、教育と発達のかかわりについて解説する。

- 【講義計画】
- 1 教育心理学で何を学ぶのか
 - 2 発達の考え方
 - 3 発達観・子ども観と教育
 - 4 知的能力の発達
 - 5 社会的・情緒的発達
 - 6 自己意識の発達

【評価方法】 定期試験期間中に筆答による論述試験を行う。また、授業内容にかかわるレポート提出を求めることがある。

【テキスト】 杉江修治著『児童生徒理解の教育心理学』（揺籃社）

【その他】 教育免許状取得を希望する心理人間学科生は、必ず履修すること。他学科履修可ではあるが、他学科生は教職に関する科目「学校教育心理学」には充当できない。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23676	教育心理学B	選	秋学期	2	2～4	石田 裕久	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 教育心理学の中心的課題である「人間の成長と発達」および「学習」の諸過程について理解を深めるために、知能・学力・性格などの理論を踏まえて、教育の方法や技術・評価の在り方に関するさまざまな問題について解説する。

【講義計画】

- 1 知能とは何か
- 2 学力をめぐる諸問題
- 3 性格への心理学的アプローチ
- 4 学習と指導
- 5 動機づけの理論
- 6 教育活動の評価

【評価方法】 定期試験期間中に筆答による論述試験を行う。また、授業内容にかかわるレポート提出を求めることがある。

【テキスト】 杉江修治著『児童生徒理解の教育心理学』（揺籃社）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23681	人格心理学A	選	春学期	2	2～4	長谷川 雅雄	
他の科目との関連	人格心理学B履修のための前提科目					他学科履修	可

【副題】 人間の心とは何かを考える〈入門編〉

【講義内容】 人間の「心」あるいは「人格」とは何かということについて考えていくために、心身症やプラセボーなどの心身関連の問題や、人は心理的危機に陥るといったいどのような状態になるのかといった問題、さらには心理的援助（心理療法）の基礎的な考え方について、事例を示しながら具体的に述べる。

【講義計画】 具体的には、まず心身症やプラセボーなどの心身関連の問題をとりあげ、「身体」を通して「心」の不思議な動きや働きをみていく。続いて、人が心理的危機に陥るといったいどのような状態になるのかを、事例を示しながら具体的に述べる。ここで扱うのは、不安、強迫、離人体験、幻覚、妄想などであるが、単に状態像の説明だけでなく、精神病理学や精神分析学が人の「心」や「人格」をどのようにとらえているかを、事例や症状など具体的な対象に則して实际的に述べる。また心理的援助（心理療法）の基礎的な考え方にも触れながら、人間の「心」や「人格」とは何かについて考えていく。
講義形式で行うが、受講者の積極的な質問を歓迎する。また、時間の許す範囲で、心や人格に関する自由討議の場を設けたいと思っている。

【評価方法】 定期（筆記）試験、小レポート、出欠席によって評価する。

【テキスト】 特に指定しないが、参考図書として以下の二冊を挙げておく。
(1)加藤将明他編『入門人格心理学』（八千代出版）
(2)清水将之他編『青年期精神衛生事例集』（星和書店）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23686	人格心理学B	選	秋学期	2	2～4	長谷川 雅雄	
他の科目との関連	人格心理学Aの続編					他学科履修	可

【副題】 人間の心とは何かを考える〈続・入門編〉

【講義内容】 数多い心の病の中から、神経症、人格障害、解離性同一性障害（多重人格）、精神分裂病などを取り上げ、それぞれにみられる人格特徴や精神力動、家族関係の様相などを具体的に示しながら、健常の場合との連続性・共通性を考慮することによって人間の「心」や「人格」についての理解を深める。

【講義計画】 人格心理学Aと同様の形式で行う。

【評価方法】 学期末に筆記試験を行う。それに、小レポートや出欠席を加味して評価する。

【テキスト】 人格心理学Aと同じ。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23691	発達心理学A	選	春学期	2	2～4	浦上 昌則	
他の科目との関連	発達心理学B、心理教育特殊講義（乳幼児期の発達心理）（児童期の発達心理）					他学科履修	可

【副題】 青年期前期の発達心理学

【講義内容】 誕生から青年期までの人間の心理的発達を理解を深めるために、発達のそれぞれの時期における心理的特徴を概観するとともに、母親、父親、きょうだい、仲間、保育者、教師など子どもをとりまく人間関係の問題や、教育的環境の問題についても解説を加える。

【講義計画】 特に、中学、高校、大学段階の年齢層に焦点をあて、以下のようなトピックスを扱う。

- ・ 人格形成の過程
- ・ 人間関係の変容
- ・ 学校の役割
- ・ 道徳性の発達
- ・ 人生観（職業意識）の発達

【評価方法】 期末試験およびレポートを評価対象とする。

【テキスト】 特に用いない。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23696	発達心理学B	選	秋学期	2	2～4	浦上 昌則	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 大学生程度の年齢段階にある人間の心理についての理解のため、友人・恋愛などの人間関係、性行動の発達・性役割の獲得、知的発達、社会性の発達、アイデンティティ等の人格形成、モラトリアム人間に代表される様々な青年観・青年像などについて解説する。

【講義計画】 特に10代後半から、30歳代中ごろまでに焦点をあて、以下のようなトピックスを扱う。

- ・ 様々な青年観、青年像
- ・ 職業生活に関する諸問題

- ・恋愛・結婚・出産
- ・家庭を形成することとは

【評価方法】 期末試験およびレポートを評価対象とする。

【テキスト】 特に用いない。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
23701	教育思想	選	秋学期	2	2～4	三上 茂
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 人間と神、人間と動物との間の境界線の取り払い、天上の火の変質、核の文明といった観点からプロメテウス神話の現代的意味を論じ、また自然と人間、文化・文明、工業と農業、大量消費と廃棄物といったテーマから、生態学的破戒と現代世界の問題について検討する。

【評価方法】 出席状況と期末テストによる。

【テキスト】 用いない。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
23706	教育課程論	選	秋学期	2	2～4	CALMANO Michael
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 "How To Make A Curriculum" or "Curriculum As A Special Case of Human (Political) Decision-Making"

【講義内容】 アメリカ合衆国の教育学者Ralph W. Tylerの理論の主なポイント（学校教育の教育目標設定、学習の達成に役立つ学習経験の選択、学習経験の組織、教育課程の効果の評価）を紹介しながら、日本の学校教育の問題点について考え、教育課程作りの理論的な基礎を検討する。

【講義計画】 英語で書かれている文章を教材に使うこともあるが、講義は日本語で行う。授業の大半はTylerの著書の日本語訳を題材にする（多少一方的な）講義になるが、履修者からの質疑に回答できる、ディスカッションを含むクラス運営を行う予定。

【評価方法】 授業への出席参加を合格の必要条件とする。講義内容を対象とする筆記試験は行わないが、授業の内容に関連するテーマを取り上げる学期末のレポートは、授業参加に与える基本点とともに、成績を決める基準となる。
なお、レポートの具体的なテーマは履修者が自由に選ぶことができる。

【テキスト】 Ralph W. Tyler 著、金子孫市監訳、「現代カリキュラム研究の基礎 ―教育課程編成のための」。社団法人日本教育経営協会、1978年。この本は厳密な意味での「テキスト」ではないので、これを読むだけでは授業参加に代わるものとされない。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
23711	学習心理学	選	秋学期	2	2～4	藤田 知加子
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 「発見学習」、「仮説実験授業」、「プログラム学習」、「オープン・エデュケーション」、「習熟度別指導」、

「バズ学習」、「集団主義教育」、「CAI」、「ティーム・ティーチング」などの教育現場で実際に実践されている様々な学習指導法を、その背景にある原理、典型的モデル、実践事例から理解していく。

- 【講義計画】 1～2. 学習の動機づけ：なぜ子どもは学校で学ぶ気になるのか？
 3～6. 学習指導法1：教師は何をすべきか？（学習指導法の概観）
 7～12. 学習指導法2：学習指導の実際と問題

可能であれば（履修者数や時間の制約が許せば）、最近の教育改革の動向や社会の変化が子どもの学びに与える影響について、「遊び」「家庭」「学校生活」「教育政策」「塾」「地域」「マスコミ」などテーマを決めてグループでレジュメを作成・発表してもらう予定です。

【評価方法】 レジュメも含めた授業への参加度と、試験の結果を合わせて評価します。

【テキスト】 指定しません。

【その他】 参考図書：杉江修治（1999）「学習指導改善の教育心理学」揺籃社 定価1,333円（外税）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
23716	認知心理学	選	秋学期	2	2～4	川口 潤
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 「わかる」しくみを探る

【講義内容】 人間の認知や行動の仕組みを、情報処理的な枠組みでとらえる認知心理学に関する基本的知見について、「思い出せない記憶はなくなっているのか」といった日常生活で出会うさまざまな具体的現象を取り上げながら、主として認知心理学的記憶研究の基礎と新しい研究の流れを解説する。

- 【講義計画】 次のようなトピックを取り上げる。
 1. 心のイリュージョン：認知の歪みについて
 2. 認知心理学の成り立ち
 3. 認知心理学の研究法
 4. 記憶のモデル
 5. 注意と意識
 6. 作動記憶
 7. 長期記憶：符号化と検索
 8. 長期記憶：知識と意味
 9. イメージ
 10. 潜在記憶
 11. 記憶の歪み
 12. 記憶と感情
 13. 日常場面における認知

【評価方法】 レポート、試験による

【テキスト】 授業中に指示する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
23721	社会心理学	選	秋学期	2	2～4	廣岡 秀一
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 社会的環境の認知プロセス

【講義内容】 個人が他者に対して、どのように自分を見せようとしているのか、他者とのコミュニケーションにおい

て、ノンバーバルコミュニケーションはどのような役割を果たしているのかについて、自己開示、対人コミュニケーション、社会的促進、流行現象などのトピックを取り上げ概説する。

- 【講義計画】
1. 社会心理学の目的と特徴
 2. 人間行動の社会心理学的深求法
 - 3～4. 知覚に及ぼす社会的影響
 - 5～7. 対人認知（人、人を見る）
 - 8～9. 帰属過程（事象の原因を知る）
 - 10～12. 社会的態度の形成・維持・変容

【評価方法】 定期試験（筆記）

【テキスト】 吉田俊和・松原敏浩 編著「社会心理学：個人と集団の理解」ナカニシヤ出版

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
23726	心理教育特殊講義 (乳幼児期の発達心理)	選	春学期	2	2～4	後藤 宗理
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 人間の発達過程のうち、誕生から幼児期までの心理的発達について講義する。発達のそれぞれの時期における心理的特徴を概観するとともに、子どもをとりまく多様な環境について理解を深めることを目的とする。とくに、母親、父親、きょうだい、仲間、保育者との関係の様相についてとりあげる。なお、夏休みのはじめに保育園見学を予定している。

- 【講義計画】
- 1 オリエンテーション（講義の進め方）
 - 2 発達についての基本的考え方
 - 3 胎児期の発達
 - 4 新生児期の発達
 - 5 乳児期の認知発達
 - 6 乳児期の対人関係の発達
 - 7 幼児前期の発達
 - 8 基本的生活習慣の形成
 - 9 幼児前期の認知発達
 - 10 幼児前期の対人関係の発達
 - 11 幼児後期の発達
 - 12 幼児後期の認知発達
 - 13 幼児後期の対人関係の発達

【評価方法】 出席とレポートによる

【テキスト】 後藤宗理編「看護場面に学ぶ発達臨床心理学」樹村房

【その他】 夏休み期間中（9月）に保育園の見学を計画しています。（希望者のみ）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
23731	心理教育特殊講義（児童期の発達心理）	選	秋学期	2	2～4	後藤 宗理
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 人間の発達過程のうち、児童期の心理的発達について講義する。児童期の心理的・身体的特徴を概観するとともに、子どもをとりまく多様な環境について理解を深めることを目的とする。とくに、母親、きょうだい、仲間、教師との関係についてとりあげるとともに、小学生をとりまく教育的環境の問題について触れる。

- 【講義計画】
- 1 児童期の概観

- 2 児童期の心理社会的危機
- 3 児童期の認知発達
- 4 児童期の学校生活
- 5 児童期の家庭生活
- 6 児童期の仲間関係
- 7 児童期のストレス
- 8 児童期から青年期へ
- 9 思春期的特徴

【評価方法】 出席とレポートによる

【テキスト】 後藤宗理編「看護場面に学ぶ発達臨床心理学」樹村房

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
23736	心理教育特殊講義（教育制度論）	選	秋学期	2	2～4	林 雅代
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 学歴主義の意識と構造

【講義内容】 教育に関わる諸制度の確立・導入や、普及・拡大、あるいは改革がもつ意義と問題点、青少年に与える影響などについて考察する。

【講義計画】

(1) イントロダクション	(7) 戦後労働市場の形成と学歴主義
(2) 学歴主義の構造	(8) 大衆教育時代の学歴主義
(3) 学歴主義の理論 (1)	(9) 能力観と学歴主義
(4) 学歴主義の理論 (2)	(10) 学歴主義と階層差・ジェンダー差
(5) 前近代の教育と学歴主義の萌芽	(11) 反学歴主義の文化
(6) 近代教育制度の発達と学歴主義の成立	(12) まとめ

【評価方法】 授業時の小レポートおよび学期末試験による。

【テキスト】 特に指定しない。参考文献を随時提示する予定。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
23741	カウンセリング的対話 I	選	春学期	3	2～4	楠本 和彦 中野 清
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 人と人が向かい合い、わかりあい、共感していく“対話”を、悩みを持つ人に対する援助的技法としての“カウンセリング”の観点を含めながら、実習・討議・VTRなどを通して捉えていく。なお、カウンセリングの実習（ミニ試行カウンセリングあるいはロールプレイ）は「カウンセリング的対話Ⅱ」で行う予定である。

【講義計画】 2コマ連続の授業である。体験学習方式で行うため、学習状況を勘案しながら、授業計画を作成していく。そのため、若干の授業内容の変更は起こりうる。次のような内容を取り扱う。

1. カウンセリングとは？対話とは？援助とは？について、個人と小グループで考え、まとめる
2. 人間観、対話観についての検討と講義
3. カウンセリングの基礎についての講義
4. 対話すること、聴くこと、共感すること、援助することに関する実習
5. VTRの視聴とその検討
6. カウンセリング的対話の自己理論に向けて

【評価方法】 グループ学習を中心に行うので、全出席を原則とする。出席状況と数度の課題および期末レポートを総合的に評価する。なお、2回以上欠席した場合は追加課題の提出を求める。追加課題が提出されない場合は、Fとなる。PF方式で評価する。

【テキスト】 特に用いない。ただし、講義中に参考文献を紹介するので、積極的に活用することを期待する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
23746	カウンセリング的対話Ⅱ	選	秋学期	3	2～4	楠本 和彦 中野 清
他の科目との関連						他学科 履修 可

【講義内容】 カウンセリング的対話Ⅰでの学びを基礎としながら、本授業では、他者との間で対話的に生きること、すなわち、自分らしさを大切にしながら他者と援助的に生きることとをさぐる。その際、援助的な対話の中にあつて、他者との対話の中で生じているプロセスに気づくことができる感受性の訓練や、援助的に他者と関わることができる働きかけのスキル訓練にも重点を置く。

【講義計画】 2コマ連続の授業である。
体験学習方式で行うため、学習状況を勘案しながら、授業計画を作成していく。そのため、授業内容の変更は起こりうる。
次のような内容を取り扱う。
1. カウンセリングに関するVTRの視聴とその検討
2. ミニ試行カウンセリング（/ロールプレイ）20分ほどのカウンセリングを行い、テープに録音する
3. 授業時間外に、録音したカウンセリングから逐語録を作成
4. 逐語録を用いながら、グループでやりとりの分析（グループ・スーパーヴィジョン）、自分がカウンセラーとして行った面接のスーパーヴィジョンを全員が受ける
5. ミニ試行カウンセリングpartⅡ
6. 自分のカウンセリング理論作り

【評価方法】 グループ学習を中心に行うので、全出席を原則とする。出席状況と数度の課題および期末レポートを総合的に評価する。なお、2回以上欠席した場合は追加課題の提出を求める。追加課題が提出されない場合は、Fとなる。PF方式で評価する。

【テキスト】 特に用いない。ただし、講義中に参考文献を紹介するので、積極的に活用することを期待する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
23751	ホリスティック生命環境論Ⅰ	選	春学期	3	2～4	アッセマ庸代 川浦 佐知子
他の科目との関連						他学科 履修 可

【講義内容】 ホリスティック生命環境論Ⅰでは、人間を宇宙的存在としてとらえ、地球という生命体全体と人間との関わりを、ホリスティックな生命論や環境倫理的な視点から検討する。特に自己とのつながりを明確にするためのイメージやアウェアネスを豊かにする体験を重視する。2コマ続きで行う。

【講義計画】 ホリスティック生命環境論Ⅰでは、
①生命への機械論的、唯物論的アプローチから、ホリスティックなアプローチへの変化とその必要性の理解。“パラダイムシフト”という現実認知、理解の変容を考察する。
②“関係性”あるいは“つながり”といったものを中心に捉えた視点から“自然”、“いのち”を考える。システム理論やガイア仮説など、生命と環境を統合的、全体的に捉えようとする視点や、ディープエコロジー、エコサイコロジーといった人間と自然の関わりを新たな角度から見つめようとするアプローチを紹介する。
③いのちの流れとしての進化、その流れの一部としての自己を考える。宇宙という広大な時空の内に存在し、地球という惑星に特有の意識、感性をもつ人間の存在のユニークさを再考しつつ、そうした人間が生命をより統合的、全体的に考えることの意味を問う。
以上の内容に様々なエクソサイズや、意見の分かち合いを通してアプローチすることで、自分の価値観、視点などを明確にしていく。

- 【評価方法】 ・PF評価
 ・授業等参加度・レポート・研究発表の総合評価。
 ・グループ（又は個人）研究・発表への主体的参加。レポートの創意工夫度・出席回数や自己存在感のあるプログラム参画等で評定する。自己評価やフィードバック法も行う予定。
- 【テキスト】 「パラダイムブック」（日本実業出版社）
 文献リスト・VTR・プリント物等適宜提示。
- 【その他】 この授業は2コマ連続で行う。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23756	ホリスティック生命環境論Ⅱ	選	秋学期	3	2～4	アッセマ庸代 川浦 佐知子	
他の科目との関連						他学科履修	可

- 【副題】 わたしのいのちと学問研究領域
- 【講義内容】 体験学習法によるライフサイエンス、STS（Science Technology & Society）、先端医療技術、バイオエシックスなどの視点を通して、地球人としての「いのち」の問題を考えていく。各自の生命環境論作りを目指す。2コマ続きで行う。ホリスティック生命環境論Ⅰの先行履修が必要。
- 【講義計画】 ①ホリスティック生命環境論Ⅱでは、身近な人間関係社会の中でもたらされる生命倫理のテーマを実践的に扱う。グループまたは個人での研究・発表・討論によって思索や現代の自分自身の価値観やあり方を問う生命環境論を展開していく。生・死をめぐる社会通念の洗い直しや、かかわりの問題・医療文化など、人生の諸段階で出会う生死のテーマを最終的には「自己の生死観」の意識化・言語化につなぐ。互いに同時代を生きて死んでいくものとして、互いのいのちの尊重を人々・社会・日本の文化や世界とのつながりの中で実践的に探る。
 ②現代社会に生きる自分自身の生活場面での疑問・興味に目を向け、生命環境やいのちに関するテーマを見極める。
 ③研究領域としての枠組みや、現代の科学者・研究者社会の研究方法の特徴を概観し、学際的アプローチや複合領域・新しい学問型式による研究アプローチとはどのようなチャレンジなのかを知るために、各自の内発的テーマを実践的に研究するノウハウをゼミ方式でトレーニングする。
- 【評価方法】 ・PF評価
 ・授業等参加度・レポート・研究発表の総合評価。
 グループ（又は個人）研究・発表への主体的参加。レポートの創意工夫度・出席回数や自己存在感のあるプログラム参画等で評定する。自己評価やフィールドバック法も行う予定。
- 【テキスト】 「パラダイムブック」（日本実業出版社）
 文献リスト・VTR・プリント物等適宜提示。
- 【その他】 この授業は2コマ連続で行う。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23761	ボディワークⅠ	選	春学期	3	2～4	グラバア俊子	
他の科目との関連						他学科履修	可

- 【副題】 からだを通しての自己理解・自己成長—自己の象徴としてのからだ—
- 【講義内容】 心身の統一的な理解のための基礎として、自己のからだに対する気づきをさまざまなアプローチにより深めていく。主なものとして、プレスワーク、フェルデンクライス・テクニク、シン・インテグレーション、ボディ・イメージなどを予定している。これらの技法に関しての実技は学外講師に依頼する。体験的な授業として2コマ続きで行う。

- 【講義計画】 1、ボディ・イメージ、ボディ・アウェアネス等、自己のからだへの気づきを深める。
2、からだの基本的なリズムである呼吸に注目し、自己の呼吸への気づきを深め、呼吸が人間の行動に与える影響の大きさを理解する。プレスワークを体験する。
3、人間の種としての特徴である、二足直立歩行に注目し、自分の立ち方歩き方の特徴を知ると同時に、重力場の中でどのような在り方が望ましいか探る。
4、身体再統合の技法であるシン・インテグレーションを体験する。
5、ふれることが心身の健康と生長に及ぼす影響について学ぶ。
6、リラクゼーションを体験し、心身に与える影響について考えを深める。
- 【評価方法】 毎回課されるボディ・ダイアリー、その他の提出物と最終レポートによる総合評価。PF方式で行なう。
- 【テキスト】 グラバア俊子「新・ボディワークのすすめ」－からだの叡知が語る 私・いのち・未来 創元社
- 【その他】 5月25日(土) 13時より21時、26日(日) 9時より17時の2日間、学内において、学外講師によるプレスワークの集中授業を行なう。なお、25日(土)は学内合宿施設に宿泊する予定である。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23766	ボディワークⅡ	選	秋学期	3	2～4	グラバア俊子	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 からだを通しての自己理解・自己成長－未来を切り拓くからだ－

【講義内容】 体験学習により各自のからだへの気づきを深めながら、ボディ・アウェアネス、ノンバーバル・コミュニケーション、五感の教育などに関する研究領域などでの主要文献の検討をおこなうと同時に、受講生自身の成長の方向を探り、各自のボディワーク論作りを目指す。2コマ続きで行う。ボディワークⅠの先行履修が必要。

【講義計画】 1、ボディワークの基本的仮説「自己の象徴としてのからだ」の体験的理解を深める。
2、人間の持つ三つの叡知を理解し、自己や他者の成長そして人間的な社会を創出していくことと関連づけ、自分のライフスタイルの問題として考察を深める。
3、豊かなコミュニケーターになるために、非言語コミュニケーションのスキルを磨く。
4、より深いボディ・アウェアネスを得る手がかりとして、フェルデンクライス・メソッドを体験する。
5、新しい身体芸術であるオイリュトミーを体験し、言葉とからだの関わりに新たな視点を得る。
6、一年間にわたって描いたボディ・イメージを手がかりに、自己の成長の方向を探る。

【評価方法】 毎回課されるボディ・ダイアリー、その他の提出物と最終レポートによる総合評価。PF方式で行なう。

【テキスト】 グラバア俊子「新・ボディワークのすすめ」－からだの叡知が語る 私・いのち・未来 創元社

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23771	人間性教育論Ⅰ	選	春学期	3	2～4	山口 真人 楠本 和彦	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 教育の内容的側面ではなく人間的側面の研究を行う。特に人間性を豊にするための教育のあり方について、国内外の諸アプローチを研究する。2コマ続きで行う。

【講義計画】 学期の前半は、テキストを中心にして人間性教育に関する理解を深める。講義というスタイルよりもディスカッションや実習を盛り込んで活発に行いたい。
学期後半は、前半の授業で広がった人間性教育に関する視野の中から各自が関心ある教育方法や実践活動を選び、グループ研究と発表を中心にして進める。

【評価方法】 出席、発表、レポートを総合してPF方式で行う。体験的に学習することを重視するので全出席を原則とし、3回以上の欠席者には追加課題を課し、その成果をもって単位認定を行う。

【テキスト】 ジョン・P・ミラー著『ホリスティック教育』春秋社

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
23776	人間性教育論Ⅱ	選	秋学期	3	2~4	山口 真人 楠本 和彦
他の科目との関連						他学科履修 可

【講義内容】 人間性教育に基づいた教育プログラムの立案と実施の原理と実際を学ぶ。学生が実際に教える立場に立って各自が立案した教育プログラムを実施し、クリティークを受けながら体験的に学習する。2コマ続きで行う。人間性教育論Ⅰの先行履修が必要。

【講義計画】 学生が、実際に人間関係の体験学習や人間性教育に基づいた授業を計画・実施し、その体験を通して人間性教育の理論と実際とを検討する。
実際に教師役と学習者役を体験してみることによって、教育的関わりのプロセスの体験が得られるとともに、概念的になりがちな教育論議を体験を踏まえた自分自身の教育論として統合していくことに取り組む。

【評価方法】 出席、発表、レポートを総合してPF方式で行う。体験的に学習することを重視するので全出席を原則とし、3回以上の欠席者には追加課題を課し、その成果をもって単位認定を行う。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
23781	臨床心理学	選	春学期	2	2~4	長谷川 雅雄
他の科目との関連						他学科履修 可

【副題】 クライアントへの理解と援助

【講義内容】 臨床心理学は、心理的苦痛や危機に直面している人に対して、心理的援助を行なうための実学である。本講では、そのようなクライアントの複雑な心理をいかに理解していくかという精神病理学的側面と、その理解に基づいてどのように援助を行なうのかという心理療法的側面との二つを基本的枠組みとして、特定の臨床的病態に焦点を絞り詳しく扱っていく。臨床的病態といっても、健康な心理とまったく異なるものではなく、両者には共通点や連続性が濃厚に認められるのであり、この点にも十分留意しながら進めていきたい。本年度は、とくに「対人恐怖」を中心に「青年期の臨床」に焦点を絞って考えていく予定である。

【講義計画】 講義形式で行なう。

【評価方法】 定期試験（筆記）および出席によって評価する。

【テキスト】 教科書は用いない。必要に応じ資料を配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
23786 23787	心理検査法 1、心理検査法 2	選	春学期 秋学期	各2	2~4	井村 安之
他の科目との関連						他学科履修 可

【副題】 各種心理検査法の概説

【講義内容】 様々な心理検査方法の習得に向けて、心理検査を行う場合の態度、検査実施の意味と目的などについて説明した後、代表的な描画法や投影法の解説を行う。

【講義計画】 心理検査とは何か、そして、どのような目的で行われるのかを明確にするとともに、検査施行にあたっての基本原則について説明する。次に、現在、臨床場面で一般的に行われている代表的な心理検査について、適宜、臨床事例を交えながら概説するとともに、実習可能なものについては受講者自らが被検者になり、その実施方法や解釈法の初歩を習得することを目標としたい。

(1) 心理検査とは何か
 (2) 心理検査施行のための基本原則
 (3) 知能検査・発達検査概説 (WAIS-R、田中ビネー、遠城寺式)
 (4) 性格検査・人格検査概説
 ① 質問紙法 (MMPI)
 ② 投射法 (SCT、TAT、描画法)

【評価方法】 レポートの内容や出席状況などから総合的に評価する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23791	ホリスティック教育人間学	選	夏期前半	3	2~4	中川 吉晴	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 臨床教育学入門

【講義内容】 現代の学校教育では教科的な側面に重点が置かれ過ぎてさまざまな問題が生じている。この授業では学習者の全人的な成長を目指した教育の基底になる人間学を検討する。

【講義計画】 本講義では、ホリスティック（全包括的・全人的）な教育を支えるための人間観・世界観を検討する。そのさい代表的なモデルを考察するとともに、参加体験型の作業をつうじて、各自がみずからの見方を築くことができるようにしてゆきたい。代表的なモデルとして、洋の東西からいくつかをとりだして検討する（たとえば、シュタイナー教育、北米のホリスティック教育論、先住民思想、東洋哲学など）。また、人間の身体、感情、思考、心、精神といった側面に注目する。さらに、癒しの教育、グローバル教育、精神性の教育といった広がりも見てゆきたい。

【評価方法】 授業への参加度とレポートによって評価する。

【テキスト】 大半の文献資料は講義時に指示するが、集中講義のため、まえもって講読してもらふ必要のある資料については、その旨指示をする。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23796	ゲシュタルトセラピー	選	夏期前半	3	2~4	倉戸 ヨシヤ	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 現代の心理療法

【講義内容】 精神分析、ロジャースと並んで現代の心理療法の流れに非常に大きな影響を及ぼしているゲシュタルトセラピーの理論と実際を、体験的な実習とワークを通して学ぶ。

【講義計画】 講義と討論を主に、VTRやテープ記録による学習、それに体験学習・ワークなどを予定している。

【評価方法】 レポートによる。評価はPF方式で行う。

【テキスト】 倉戸ヨシヤ編 「ゲシュタルト療法」 【現代のエスプリ】 至文堂

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23801	人間関係特殊講義（自己分析）	選	夏期前後	3	2～4	木村 晴子	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【講義内容】 人間を知るためには種々の心理検査法が開発されている。それらは他者を知ることを目的に開発されているが、これらを自分を知るために利用することを試みる。このような利用は心理検査法自体に対する理解をも深めることになる。

【講義計画】 絵を描いたり、物語を作ったり、いくつかの心理テストなどを行うことで、「自分」についてのデータを集め、自己分析記録を作成する。特に、ユング心理学の視点から、自分自身の「心」について考え、自分の中に何があるのか、をさぐっていききたい。自分についてのデータは原則としてグループの中でメンバーとわかちあい、お互いにフィード・バックしながら考え、まとめていく。

【評価方法】 自己分析記録としてのレポートを作成し、提出する。

【その他】 市販されている既製のテスト用紙を使う場合は実費を集めます。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23806	人間関係特殊講義（アジアセミナー）	選	秋学期	3	2～4	池住 義憲	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 日本人として、アジア諸国や日本国内で生じている人権を巡る諸問題に対する気づきを広げ、思考を深め、行動化の可能性を探るための体験学習をおこなう。

【講義計画】 他者（隣人）に出会って、自らの生き方・あり方を学ぶ。他者（隣人）に学んで自らを見直し、変えていく。このセミナーでは、私たち日本にいる者がアジアに胸を借りて、アジアから学びます。単に理解を深めたり、また、知識をふやすことを目的とせず、人間としての根源的な生き方を探り、自らを変えることをねらいとして以下のようなテーマ、内容などに向き合い、取り組みます。

- ・『アジアの現実と私たち：アジアの農村女性は今』
- ・『車椅子から考える海外協力・福祉・人間関係・・・』
- ・『滞名古屋フィリピン人女性労働者と私たち』（現地訪問を含め学外で行う）
- ・『二つの性搾取・性差別：“従軍”慰安婦問題と観光売買春』
- ・『沖縄で起こっている日本の問題！』（リソース・パーソンを招いて）
- ・『在日コリアンと私たち』（リソース・パーソンを招いて）
- ・『笹島・栄の日雇労働者との対話』（現地訪問を含めて学外で行う）
- ・『死刑制度と私たち』
- ・『被差別部落の人たちと私たち』、などなど・・・。

【評価方法】 「自己評価」という方法をとります。自分にとって毎日の講義の終わりに、その日の内容は自分にとってどういう意味・価値（Value）があったかを自ら引き出し（Ex-）、「評価（Evaluate）」してもらいます。試験およびレポート提出はありません。一緒に考え合い、学び合うために「出席」を大切にします。尚、評価はPF方式で行います。

【テキスト】 ありません。現実に社会で起こっていること（社会の現状・脈絡、コンテクスト）そのものがテキストです。必要があればその都度関連資料などを紹介します。

【その他】 通常授業は2コマ連続で行います。また、2002年10月末の5～8限目の学内授業の続きとして、夕方に学外授業（笹島方面）を行います。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23811	調査・測定法Ⅰ	選	春学期	2	3・4	浦上 昌則	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 人間理解のための心理測定 of 考え方や方法についての理解を深めるために、もっとも一般的な方法である質問紙調査法の特徴について理解し、簡単な質問票の作成、データの収集、分析を試みる。Ⅰでは、利用の実際を把握し、質問紙の形式や注意事項を理解し、質問紙の作成までを行う。

【講義計画】 (1) 心理学における心理測定の実際…『教育心理学研究』等から関連する論文を精読
(2) 質問紙調査法に関する解説…質問紙の形式、質問紙の作成手順、作成上の注意事項
(3) コンピュータ実習…使用方法、統計解析プログラム

【評価方法】 レポートなどに基づいて評価する。

【テキスト】 資料を配布する

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23816	調査・測定法Ⅱ	選	秋学期	2	3・4	浦上 昌則	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 人間理解のための心理測定 of 考え方や方法についての理解を深めるために、もっとも一般的な方法である質問紙調査法の特徴について理解し、簡単な質問票の作成、データの収集、分析を試みる。Ⅱでは、調査を実施し、統計プログラムを用いた分析を行い、報告書にまとめるという作業を行う。

【講義計画】 (1) 質問紙の作成…テーマに関する討議、質問項目の検討、実施計画の立案
(2) 調査の実施
(3) 調査データの解析…項目分析などの分析方法、信頼性、妥当性に関する講義、分析実習
(4) まとめ…報告書の作成

【評価方法】 出席、および最終報告書によって評価する。

【テキスト】 資料を配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23821 23826	心理教育統計法Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	野口 裕之	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 Ⅰでは、心理学・教育学の実施・調査研究を行う際に必要となる統計的手法の基本的な技法および考え方について、平均、分散、標準偏差、相関係数、その他の関連性を表わす指標、直線回帰、および多変量解析法の中の重回帰分析と因子分析を取り上げ、記述統計的な側面について解説する。
Ⅱでは、心理学・教育学の実施・調査研究を行う際に必要となる統計的手法の基本的な技法および考え方について、確率変数と確率分布、標本分布、仮説検定の考え方、仮説検定の実際というトピックを取り上げ、解説することにより、統計学の“考え方”あるいは“筋道”のより深い理解を目指す。

【講義計画】 Ⅰでは得られたデータの特徴を記述する為の統計的方法を、Ⅱでは得られたデータを基により一般的な結論を導く為の統計的方法を取り上げる。さらに余裕があれば項目分析、古典的テスト理論など心理教育統計学に固有の話題も取り上げる予定である。
特に理由がない限り、ⅠとⅡの両方を連続して履修することが望ましい。

【評価方法】 主として筆記試験によるが、一定の条件を満たした者には平常点を加味して評価する。詳細は授業時に説明する。

【テキスト】 特に指定せず、講義時に教材プリントを配付する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23831	グループアプローチⅠ	選	夏期前半	3	3・4	津村 俊充 中村 和彦	
他の科目との関連	「人間関係トレーニング」が履習済みであること（必須条件）					他学科履修	可

【副題】 ファシリテーター・トレーニング

【講義内容】 今世紀最大の社会的発明といわれるグループアプローチは、Tグループやエンカウンターグループなどの名称で世界中に広まっている。この授業ではファシリテーターとオブザーバーを体験しながら、グループファシリテーション論を中心に、実際の体験的な理解を深める。

【講義計画】 この授業は、5泊6日の学外での合宿形式で行う（2002年度は、8月7日（水）～12日（月）の間、名古屋市民御岳休暇村）。

この授業では、Tグループなどに代表される、グループを用いた人間関係トレーニングにおけるファシリテーターとしての人間観やスキルを身につけることを目的としており、参加者は、参加者体験だけでなく、ファシリテーターとしての役割やグループを観察するオブザーバーの役割を交互にとりながら、いかに一人ひとりの参加者がプロセスから学び、またグループを成長させる働き（ファシリテーション能力）を育てることを体験的に探る。1つの学習セッションは、グループセッションとフィードバックセッションから構成されており、1週間を通して、基本的には、10数回ほどの学習セッションの実施プログラムと体験をまとめるプログラムとで構成される予定である。

【評価方法】 合宿・学内授業への参加およびレポートにより評価する。評価はPF方式で行う。

【テキスト】 津村・山口（編）「人間関係トレーニング—私を育てる教育の人間学的アプローチ—」ナカニシヤ出版

【その他】 合宿の費用（合宿費・食費）として、38,000円を徴収する。また、交通費は別途必要となる。学内授業として、合宿前に一度7月5日（金）9～10限にD43教室にて、オリエンテーション、および行き方について説明を行う。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
23836	グループアプローチⅡ	選	秋学期	3	3・4	津村 俊充 中村 和彦	
他の科目との関連	「人間関係トレーニング」「グループアプローチⅠ」が履習済みであること					他学科履修	可

【副題】 グループアプローチの理論と実際

【講義内容】 Tグループとエンカウンターグループに関する基礎的文献に基づいて、ディスカッションを行いながら、Iでの体験を明確化すると同時に、グループアプローチのトレーニング理論に関する理解を深める。2コマ続きで行う。グループアプローチⅠの先行履修が必要。

【講義計画】 この授業は、テキストを読みながら討論を行うとともに、グループアプローチに関する論文（たとえば、グループ成長に関わる研究、ファシリテーターやファシリテーションに関わる研究、また学習者の変化・成長に関わる研究など）を受講者が相互に紹介しあいながら、ディスカッションをし、グループアプローチに関する理論と実際についての理解を深める。また、進行役や記録係なども決め、討論を行い、その体験をふりかえり、分かち合いながら、課題をもったグループセッションのファシリテーションの仕方も学習する。

【評価方法】 授業への参加度、討論への関与度、および提出されたレポートにより評価する。評価はPF方式で行う。

【テキスト】 カール・ロジャース著／島瀬稔・島瀬直子訳「エンカウンター・グループー人間信頼の原点を求めてー」
創元社